

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人 明治薬科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
薬学部	薬学科	夜・通信		18.5	62	80.5	19	
	生命創薬科学科	夜・通信			19.5	38.0	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/jitumu.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人 明治薬科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上で公開している。  
( [https://www.my-pharm.ac.jp/koho/co\\_organization.html](https://www.my-pharm.ac.jp/koho/co_organization.html) )

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	学校法人明治薬科大学 理事長（現職）	2023年11 月18日まで	法人の業務を統理 する
非常勤	学校法人明治薬科大学 副理事長（現職）	2023年11 月18日まで	理事長を補佐する
(備考) 全理事11名中、学外者である理事は9名。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人明治薬科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(1) 授業計画の作成過程</p> <p><b>【科目責任者】</b></p> <p>a) 教育目的・ディプロマ・ポリシーと関連した教育目的を設定する。  b) 学習到達目標・学生が習得する知識や技能の具体的な到達目標を設定する。  c) 授業分担者・授業担当者を選定し、授業分担を決定する。  d) 授業内容・授業内容、準備学習(予習・復習)、使用教材などを決定する。  e) 課題(レポート・試験等)のフィードバック及び成績評価方法の設定基準や配分割合を設定する。成績評価がクラス毎に適正・公平に行われるよう注意する。  ○上記を行う過程で、必要に応じて授業担当者を招集し協議を行う。</p> <p><b>【分野責任者】</b></p> <p>a) 科目責任者が作成した授業計画を主に以下の5点について確認する。  ①大学の各種ポリシーに基づいた内容であること。  ②シラバスの必須項目がすべて記載してあること。  ③授業内容が薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠していること。  ④授業内容が科目間で過度に重複していないこと。  ⑤教科書、参考書の指定が適切であること。  b) 担当分野の科目間で、授業内容に重複がないかを確認する。  ○授業計画に改善が必要と思われる場合は科目責任者に改善を命じ、必要に応じて科目責任者を招集し協議を行う。</p> <p>※ 完成した全ての科目の授業計画について、教務正副委員長により最終チェックがおこなわれる。</p> <p>(2) 授業計画の作成・公表時期</p> <p>1 1月 : 分野責任者、科目責任者、授業分担者の決定  1 2～2月 : 授業計画の策定と第三者(教務正副委員長)による最終チェック  3月 : 授業計画 完成  4月 : 各学年オリエンテーションにて冊子体を配布及びホームページ掲載</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページ、履修の手引き(シラバス)で公表  <a href="http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html">http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

「教育課程及び履修方法等に関する規程」に基づき、授業計画に設定された成績評価方法を用い、厳格かつ適正に評価している。

○ 学生からの質問等に関しては、講義中に受け付けるとともに、オフィスアワーも実施して対応している。

○ 成績評価については、「項目別配点表」を作成して項目別の得点を把握している。さらに講義資料や試験問題等もエビデンスとして保管している。

○ 事前実務実習では、学生の自己評価（概略評価）を実施しており、実際の成績と自己評価を比較することにより、項目別の修得状況をより具体的に把握できる仕組みを導入している。卒業研究においても、日々の研究状況、発表会や卒業論文等から、ルーブリック評価により適正に評価している。なお、レポートや試験などのフィードバック方法や成績評価の方法については、毎年4月に学生に配布している冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

あらかじめ設定されている以下の方法でGPAを計算している。なお、GPAについては、冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

① それぞれの科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）で得られた評価をGP（Grade Point）に置き換え、それぞれの単位数を掛ける。

評価：評点	GP
S：90～100	4.00
A：80～89	3.00
B：70～79	2.00
C：60～69	1.00
D：59以下	0.00
K：欠席	0.00
X：受験資格なし	0.00
N：認定科目	計算対象外

② 履修登録された全科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）の単位数の合計を求める。

③  $GPA = \frac{\text{①の総和}}{\text{②}}$

※小数点第3位以下は切り捨て、小数点第2位まで表記する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）で公表 <a href="http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html">http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html</a>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針） 薬学科の教育目標は、次に示すような能力を備えた医療の担い手としての質の高い薬剤師の養成です。この目的を達成するために編成されたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「学士（薬学）」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療人としての社会的使命を担える薬剤師や医療系研究者を目指す。</li> <li>2. 医療・製薬・保健衛生の様々な分野で必要となる基礎知識・技能・態度を修得する。</li> <li>3. 薬物治療に責任をもてる薬剤師になる。</li> <li>4. 医療人としてのコミュニケーション能力を備える。</li> <li>5. 医療全体を社会的視点で思考することができる。</li> <li>6. 生涯に亘って学習する習慣を身につける。</li> </ol> <p>生命創薬科学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針） 将来さまざまな生命関連職種で必要となる次に示すような基本知識・技術・態度を適切に身に付け、卒業に必要な単位を修得した者に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創薬化学分野の基礎学力を身につける。</li> <li>2. 生命科学分野の基礎学力を身につける。</li> <li>3. 創薬科学に関わるために必要となる医療薬学の素養を身につける。</li> <li>4. 幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う。</li> <li>5. 論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。</li> </ol>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）で公表 <a href="http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html">http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html</a>
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html</a>
財産目録	本学ホームページ <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html</a>
事業報告書	本学ホームページ <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html</a>
監事による監査報告(書)	本学ホームページ <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ(大学概要▷情報公開/取組▷自己点検・評価)、 大学広報で公表 <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_scsa.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_scsa.html</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ(大学概要▷情報公開/取組▷自己点検・評価)、 大学広報で公表 <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_scsa.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_scsa.html</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）、大学案内、入試要項で公表） <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/idea.html">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/idea.html</a>
（概要） 建学の精神 薬学の普及と社会に有用な薬剤師を養成し、医薬分業を実施し、もって国民の保健衛生へ貢献する。 大学の理念 ソフィア（純粋知）とフロネシス（実践知）を兼備えた人材を育成する。 大学の教育目標 1. 薬物治療に責任を持てる薬剤師を養成する。 2. 強い探究心と洞察力を持つ、独創的発想力豊かな人材を育成する。 3. 柔らかな心と豊かな人間性を持った国際的に通用する薬学人を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）で公表 <a href="http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html">http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2023/y1.html</a>
（概要） 薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針） 薬学科の教育目標は、次に示すような能力を備えた医療の担い手としての質の高い薬剤師の養成です。この目的を達成するために編成されたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「学士（薬学）」の学位を授与します。 1. 医療人としての社会的使命を担える薬剤師や医療系研究者を目指す。 2. 医療・製薬・保健衛生の様々な分野で必要となる基礎知識・技能・態度を修得する。 3. 薬物治療に責任をもてる薬剤師になる。 4. 医療人としてのコミュニケーション能力を備える。 5. 医療全体を社会的視点で思考することができる。 6. 生涯に亘って学習する習慣を身につける。  生命創薬科学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針） 将来さまざまな生命関連職種で必要となる次に示すような基本知識・技術・態度を適切に身に付け、卒業に必要な単位を修得した者に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」の学位を授与します。 1. 創薬化学分野の基礎学力を身につける。 2. 生命科学分野の基礎学力を身につける。 3. 創薬科学に関わるために必要となる医療薬学の素養を身につける。 4. 幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う。 5. 論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）、大学案内、入試要項で公表） <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/kyoumu/outline.html/">https://www.my-pharm.ac.jp/kyoumu/outline.html/</a>

(概要)

薬学科は、「薬剤師の社会的使命を強く自覚した薬剤師及び医療系薬学研究者の養成」、「薬物治療の責任を担える薬剤師の養成」、「医療人としてのコミュニケーション能力を備えた人材の育成」、そして「医療全体を社会的視点で思考することのできる人材の育成」を教育目標としています。教育課程は「薬学教育モデル・コアカリキュラム」「実務実習モデル・コアカリキュラム」を基に、サイエンスに基づく実学としての薬学教育・薬剤師教育により専門的知識・技能・態度が身につけられる本学独自のカリキュラムを編成しており、6年間の教育を1,2年次の基礎教育と3年次以降の4年間の専門教育に大別しています。

生命創薬科学科は、「生命科学分野と創薬化学分野の基礎学力」、「創薬科学に関わるために必要な医療薬学的素養」、及び「幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う」に加え、論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する独創性豊かな創薬科学者及び高度な技術を有する技能者を育成することを教育目標としています。少人数制の行動型授業により高いコミュニケーション能力を養うとともに、多種多彩な研究体験を通して論理的思考力を伸ばせるように、生命科学や創薬研究を基盤にした連動性に優れた本学独自のカリキュラムを編成しています。本学の独自カリキュラムは、将来大学院への進学を目指す学生にも対応しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）、大学案内、入試要項で公表）

<https://www.my-pharm.ac.jp/shiken/admissionpolicy.html>

(概要)

薬学科のアドミッション・ポリシー

1. 高等学校までの学習内容を十分に習得し、医療・創薬に関わる高度な学識を培う意欲と、生命の尊重と人への共感の心をもって人類の健康を守り、社会に貢献する志の高い人を求めます。
2. 医療技術の高度化、医薬分業の進展などに伴う医薬品の適正使用といった社会的要請に的確に応えられる医療の担い手として、自立心旺盛で勉学意欲に溢れ、現場で活躍できる薬剤師、および確かな研究能力を身につけた医療系研究者を目指す人を求めます。
3. 入学試験では、高等学校の数学、理科（化学、物理、生物）、外国語（英語）の学力が身につけているかどうかを重視します。また、入学試験に課される科目以外についても幅広く学び、自分の考えを正確に伝える能力を身につけていることを望みます。

生命創薬科学科のアドミッション・ポリシー

1. 高等学校までの学習内容を十分に習得し、医療・創薬に関わる高度な学識を培う意欲と、生命の尊重と人への共感の心をもって人類の健康を守り、社会に貢献する志の高い人を求めます。
  2. 自然科学に興味があり、薬の創製等を通して人類へ貢献するために「物質、生命、数理、情報」に関する確かな基礎学力と研究能力を身につける意欲に溢れ、将来、製薬企業や研究機関等で活躍できる技術者、研究者を目指す人を求めます。
- 入学試験では、高等学校の数学、理科（化学、物理、生物）、外国語（英語）の学力が身につけているかどうかを重視します。また、入学試験に課される科目以外についても幅広く学び、自分の考えを正確に伝える能力を身につけていることを望みます。

②教育研究上の基本組織に関すること



公表方法：本学ホームページ、大学広報で公表

[https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi\\_education.html](https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_education.html)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
—	—	37人	19人	19人	12人	3人	90人
—	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページ <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/education/kdb/kyoin/kyoin_list.html">https://www.my-pharm.ac.jp/education/kdb/kyoin/kyoin_list.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
R4. 8. 30（火）13-15時「今の時代における学生支援について」講師：重村朋子氏（一般社団法人メンタルヘルス・ビューロー理事、元日本医科大学学生相談室常勤カウンセラー）							
R4. 12. 20（火）13-15時「創薬研究における知財・産学連携の知識の活用」講師：本田圭子氏（株式会社東京大学 TLO 取締役副社長）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	420人	460人	110%	2400人	2206人	92%	若干名	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	420人	460人	110%	2400人	2206人	92%	若干名	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	369人 (100%)	48人 (13%)	312人 (85%)	9人 (2%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	369人 (100%)	48人 (13%)	312人 (85%)	9人 (2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>(1) 授業計画の作成過程</p> <p><b>【科目責任者】</b></p> <p>a) 教育目的・ディプロマ・ポリシーと関連した教育目的を設定する。</p> <p>b) 学習到達目標・学生が習得する知識や技能の具体的な到達目標を設定する。</p> <p>c) 授業分担者・授業担当者を選定し、授業分担を決定する。</p> <p>d) 授業内容・授業内容、準備学習（予習・復習）、使用教材などを決定する。</p> <p>e) 課題（レポート・試験等）のフィードバック及び成績評価方法の設定基準や配分割合を設定する。成績評価がクラス毎に適正・公平に行われるよう注意する。</p> <p>○ 上記を行う過程で、必要に応じて授業担当者を招集し協議を行う。</p> <p><b>【分野責任者】</b></p> <p>a) 科目責任者が作成した授業計画を主に以下の5点について確認する。</p> <p>①大学の各種ポリシーに基づいた内容であること。</p> <p>②シラバスの必須項目がすべて記載してあること。</p> <p>③授業内容が薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠していること。</p> <p>④授業内容が科目間で過度に重複していないこと。</p> <p>⑤教科書、参考書の指定が適切であること。</p> <p>b) 担当分野の科目間で、授業内容に重複がないかを確認する。</p> <p>○ 授業計画に改善が必要と思われる場合は科目責任者に改善を命じ、必要に応じて科目責任者を招集し協議を行う。</p> <p>※ 完成した全ての科目の授業計画について、教務正副委員長により最終チェックがおこなわれる。</p> <p>(2) 授業計画の作成・公表時期</p> <p>1 1月 : 分野責任者、科目責任者、授業分担者 の決定</p> <p>1 2～2月 : 授業計画の策定と第三者（教務正副委員長）による最終チェック</p> <p>3月 : 授業計画 完成</p> <p>4月 : 各学年オリエンテーションにて冊子体を配布及びホームページ掲載</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

「教育課程及び履修方法等に関する規程」に基づき、授業計画に設定された成績評価方法を用い、厳格かつ適正に評価している。

- 学生からの質問等に関しては、講義中に受け付けるとともに、オフィスアワーも実施して対応している。
- 成績評価については、「項目別配点表」を作成して項目別の得点を把握している。さらに講義資料や試験問題等もエビデンスとして保管している。
- 事前実務実習では、学生の自己評価（概略評価）を実施しており、実際の成績と自己評価を比較することにより、項目別の修得状況をより具体的に把握できる仕組みを導入している。卒業研究においても、日々の研究状況、発表会や卒業論文等から、ルーブリック評価により適正に評価している。

なお、レポートや試験などのフィードバック方法や成績評価の方法については、毎年4月に学生に配布している冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

あらかじめ設定されている以下の方法でGPAを計算している。なお、GPAについては、冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

- ① それぞれの科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）で得られた評価をGP (Grade Point) に置き換え、それぞれの単位数を掛ける。

評価：評点	GP
S：90～100	4.00
A：80～89	3.00
B：70～79	2.00
C：60～69	1.00
D：59以下	0.00
K：欠席	0.00
X：受験資格なし	0.00
N：認定科目	計算対象外

- ② 履修登録された全科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）の単位数の合計を求める。

③  $GPA = \frac{\text{①の総和}}{\text{②}}$

※小数点第3位以下は切り捨て、小数点第2位まで表記する。

薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

薬学科の教育目標は、次に示すような能力を備えた医療の担い手としての質の高い薬剤師の養成です。この目的を達成するために編成されたカリキュラムを履修し、卒業に必

要な単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「学士（薬学）」の学位を授与します。

1. 医療人としての社会的使命を担える薬剤師や医療系研究者を目指す。
2. 医療・製薬・保健衛生の様々な分野で必要となる基礎知識・技能・態度を修得する。
3. 薬物治療に責任をもてる薬剤師になる。
4. 医療人としてのコミュニケーション能力を備える。
5. 医療全体を社会的視点で思考することができる。
6. 生涯に亘って学習する習慣を身につける。

生命創薬科学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

将来さまざまな生命関連職種で必要となる次に示すような基本知識・技術・態度を適切に身に付け、卒業に必要な単位を修得した者に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」の学位を授与します。

1. 創薬化学分野の基礎学力を身につける。
2. 生命科学分野の基礎学力を身につける。
3. 創薬科学に関わるために必要となる医療薬学の素養を身につける。
4. 幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う。
5. 論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
	生命創薬科学科	125 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：公表方法：履修の手引き（シラバス）冊子体配布、ホームページ掲載 <a href="http://syllabus.my-pharm.ac.jp/policy/jugyo.pdf">http://syllabus.my-pharm.ac.jp/policy/jugyo.pdf</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページで公表（学生生活／キャンパスガイド）  
<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/guide/guide.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科 1年	1,340,000円	400,000円	550,000円	
	薬学科 2～6年	1,340,000円	0円	650,000円	
	生命創薬 科学科 1年	1,100,000円	400,000円	500,000円	
	生命創薬 科学科 2～4年	1,100,000円	0円	500,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) オフィスアワー : 学生が予約なしでも授業の質問や相談を受けられるように、教員が予め公表して空けておく時間帯で個別対応を行います。 アドバイザー制度 : 学生が学業上の指導や学生生活の上で困ったことがあったときに教員に相談できる制度です。1年次に担当のアドバイザーが決定し、3年次まで、相談に応じています。 卒業研究指導教員 : 両学科ともに、4年次(薬学科は4～6年次)には全員が卒業研究を履修するために研究室に配属されます。研究室では教員だけでなく上級生からも、様々なアドバイスを受けることができます。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生への進路・就職の指導(サポート)については、進路就職支援委員会とキャリア支援課が中心となり、全面的に支援(バックアップ)している。特に、本学学生には、早期から卒後の進路・就職への意識をもたせるよう努めており、就職説明会(ガイダンス)は低学年から開催し、4・5学年次には、年間7～8回程度開催している。また、卒業研究のため、4年次以降の学生全員を各研究室に配属しており、就職についても、指導教員は学生にとって「最も身近な相談者」として支援している。さらに、進路選択に係る問題等が発生した場合には、進路就職支援委員会で協議後、教授会に報告(審議)し、大学全体の協力が得られよう努め、問題点の早期解決を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 「健康相談室」に看護師が常駐し、急病の看護、健康相談に応じている。また産業医、心療内科医、カウンセラーが定期的に来校し、希望に応じて診察やカウンセリングを受けることができる体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : 本学ホームページで公表 (教育/研究) <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/education/">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/education/</a> <a href="https://www.my-pharm.ac.jp/koho/research/">https://www.my-pharm.ac.jp/koho/research/</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人明治薬科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		92人	88人	180人
内 訳	第Ⅰ区分	64人	55人	
	第Ⅱ区分	21人	22人	
	第Ⅲ区分	7「－」人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				180人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	2「-」人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	0人	人	人
計	2「-」人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人



(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	1「-」人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	1「-」人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。